

共同礼拝

2024年3月3日(日) 午前10時30分

午後4時

司式 牧師 姜 徑米

奏楽 河野和雄

前 奏

招 詞 詩 編 102編2～3節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

ゼカリヤ書 9章9～10節 (旧1489)

マタイによる福音書21章1～11節(新39)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 15

説 教 「柔和な王」 牧師 高橋和人

祈 禱

讃 美 歌 130

聖 餐 式

献 金

頌 栄 544

祝 禱

後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。
礼拝は前の方から静かに着席しましょう。

3月の祈り

レント(受難節)の期間にあつて、主の御受難の持つ恵みが意識され、罪の贖いと悔い改めの信仰の歩みが整えられるように。

イースターを覚え、復活の主を仰ぎ、礼拝と信仰の生活を確かなものにする事ができるように。

教会総会が主の御心に導かれるように。

高齢や体調などにより礼拝に集うことがかなわないでいる兄弟姉妹たちを覚えて。

震災の地の教会と人々を覚えて。戦争と紛争の地に平和がもたらされるように。

今日の祈り

主イエスの十字架の受難と死を思い、贖いによる救いの信仰を確かめて行くことができるように。

愛する家族を主の御許に送った人々に、主が寄り添い慰めが与えられるように。

能登半島の震災の被災者、教会と教会員が守られるように。

病を負う兄弟姉妹とそれを支える人たちが守られるように。

「柔和な王」 高橋和人

マタイによる福音書21章1～11節

主イエスはエルサレムに東の方から入られた。そこははっきりと御自分の死の場所であった。オリーブ山は「その日、主は御足をもって、エルサレムの東にあるオリーブ山に立たれる」(ゼカリヤ14:4)と主の日、神の御業の実現の時の訪れを表す。主イエスはエルサレムを目指して、弟子たちと旅をしてきた。その目的地は受難の場所であった。エルサレムは旧約聖書の舞台の中心であり、預言の焦点であった。

主イエスはそこをご自分の受難の場所とされた。エルサレムは過ぎ越しの祭りの巡礼者に溢れていた。

主イエスは必要なことを「主がお入り用なので」と指示される。ろばに乗られるのは預言の実現であった(イザヤ62:11 ゼカリヤ9:9)。弟子たちはろばと子ろばを引き、その上に服がかけられると主は乗られ、エルサレムへ入られた。

群衆は自分の服と木の枝を道に敷き「ダビデの子にホサナ。主の名によって来られる方に、祝福があるように。いと高きところにホサナ。」(9)と叫び迎えた。ホサナは「救い」を意味し、枝はマカバイによるエルサレムと神殿の奪還を思わせる(続編マカバイ2 10:7)。人々の期待した王の姿である。

しかし、主イエスの入城は「柔和な方」の姿であった。力によらず、むしろ荷役の動物に乗られ、従う者も普段着の行列であった。

主は御自分を「柔和で謙遜な者」と言われた(11:29)。それは重荷を負う者を招かれる方だ。主イエスの御支配は寄り添われるところにある。主は、語り掛け、人を癒し、慰める。同時に、神とを人とを真に愛さず、神なしに自分に生きる罪を知らせ、神に立ち帰ることを求めた。

しかし、人の罪の染みついた深さ、頑なさは償われなければならない。主の柔和は人の罪を負い、償いの犠牲となられる厳しさだ。

主を迎えた都中の人々は騒ぎ揺れ動いた。しかし、「ホサナ」と叫んだ六日後には「十字架につける」(7:23)と叫び続けた。ここにも人の姿がある。

主イエスは特別ではない日に、人々の日々の生活に語り掛けられた。主の救いは落ち着きの中にもたらされる。それは、人の揺れ動く時にも揺るぐことのないお方を「ホサナ」「この方は救い」として受け入れることにある。